ものだと思う。おらが町で入手した情報、おらが町で生まれた人類に寄与する研究等に接し、各界の指導者に、自信をよみがえらせることが、今の横浜造りに、急務ではないだろうか。自信をもったわが町を愛する人達に、リードされるならば、人々は自分の町に誇りを感ずるであろうし、さらに大きな希望と夢を育むために、多くの知恵を発揮するだろう。そのためにも、経済人が、真のボランティア運動を、推進する必要がある。私の知る限りでは、多くの経営、経済人は、少しの慈善的行為に満足し、真にその都市に愛着を感じた行為をしてきただろうか疑問に思う。厳しい経済の波にもまれた経験、体験を生かし、その都市のもつ悩みの解消に努力することが大切であると思う。

（若葉運輸㈱社長）

都心臨海部の再開発とうるおいのある地域づくり

吉田　次郎（戸塚区　48歳）

テーブルに横浜五万分の一の地図を広げてじっと見入る。すると私がこれまで生まれ、育ち、生活してきた市内のあちこちの情景が浮んでくる。

それだけに私にとって横浜の「きのう、今日、あした」は、私が県行政にたずさわっていることを別としても、一市民として大きな関心を持たざるをえない。

というわけで一市民の立場から、あすの横浜のすがたについて、思いつくままではあるが記させていただく。

○臨海都心部に都市中枢管理機能を

神奈川の顔は横浜であり、横浜の顔は西区から中区にかけての臨海部であるといってよい。横浜港最奥部の高島ふ頭に船から上陸すると、右手に国鉄高島ヤードから横浜駅東口開発地区、左手に三菱横浜造船所から東横浜貨物ヤード、新港ふ頭へと続く。地理的にみるとこの一帯が横浜の都心部のまた中心部でなくてはならない。ここが都心臨海部として再開発されるならば、現在二極化されている関内、伊勢佐木町地区と横浜駅西口業務地区とが再開発地区を媒体として有機的に連けいし、まとまりのある大都心部が形成されるにちがいない。もちろん造船所や鉄道ヤードなどの移転は容易でなく長期的な課題になるであろうが、ぜひあすの横浜のため努力してもらいたい。そして再開発地区には、港ヨコハマにふさわしい都市中枢管理、業務管理機能をどっしりと定着させ、港都横浜の独自性を具備してほ

しい。さらに臨海部の特性を生かして、緑あふれる臨海プロムナードを造成し、第二、第三の山下公園の出現を望みたい。完成の暁には、日本でもユニークな臨海都市となることうけあいである。

幸い、この地区について、現在本格的検討が進められているという。長期的展望に立った海の香りのする基本構想を期待したい。

○周辺部に地域の顔を

市周辺部にあたる港北、緑、旭、瀬谷、戸塚、港南、金沢の各区は、高度成長時代、都市化の大波をまともにうけ、全国まれにみる人口の急激な流入をみたところである。一戸建、中層、高層、ミニ開発住宅等々新しい市街地が形成されつつある。

だが、どこの地区へ行っても総じて街並みが同じような印象を受けるのは私一人だけではあるまい。緑なら緑、戸塚なら戸塚らしい、地域、地域の多様なうるおいのある街ができたらどんなに楽しいことか。つまり横浜の地域、地域のさまざまな顔があってほしいのである。

私は戸塚に住んでちょうど一〇年。休みにはよく散歩する。先日、広重の絵にある東海道五拾三次の「戸塚」、柏尾川の大橋のほとりに立つ。いま柏尾川は河川改修の真最中。「左りかまくら道」は、泥を満載した大型ダンプがひっきりなしに通り、道路端には空かんが散乱、砂ぼこりとともに新聞紙が舞い上る。

絵にある街道沿いのワラ屋根、亭々とした松、広々とした田園の風景は、いまはまったくない。といって、昔ののどかな風景を懐かしがる感傷も私にはない。

ただ、自然にスケッチをしてみたくなるような戸塚らしい街のたたずまいを願うばかりである。

（神奈川県企画部企画調整室長）

横浜の「顔」と「心」を美しく

子安　精司（戸塚区　46歳）

諸外国を含めて、各地の都市にはおのおののもつ個性的な美しさがあります。横浜市も国際港都としての美しさを是非持ちたいと思います。

さて、港の持つ機能は二つあると思いますが、その一つは力強いクレーンに象徴される「横浜市の力」で、もう一つは情緒と景観を看板にした「横浜市の顔」です。さらに